

世界のあちこちでフナを愛でる

2015年12月29日

「ニッポンにはヘラブナ釣りがある」

コレだな。 ↑

って、何のキャッチだって話だけど。

門外漢からは「伝統的な」と形容されることの多い遊びだが、実は浅い歴史である。100年を長いと見るか短いと見るかは多分に主観によるが、紀元前から始まる有史で見た場合でも、人類誕生から現在までの地球規模的な時間軸で見た場合のどちらでも、「短い」・「浅い」と呼べる時間である。仮に他魚種の釣りや、他の遊びやスポーツと比較して長いとしても、そこに胡座をかいたら淘汰される。釣りのスタイルは胡座だが。それを理解した上でやっぱり、「日本にはヘラブナ釣りがある」とあえて宣言したいよな、と。純粋に面白いよ！って。

ヘラブナは、食用として品種改良され養殖が始まり、やがてキャッチアンドリリースのゲームフィッシングの対象となった。管理釣場では当たり前の、「口以外に掛かったものは検量対象外＝スレ禁止」は、ずっと後になってから起こったムーブメントだ。80年代、今で言うメジャートーナメントの黎明期、全国大会でファイナルから突然スレ禁止になったときは騒然とした、と先輩から聞いている。その大会が史上初のスレ禁止ではないとは思いますが、半世紀も歴史がないルールにまだ馴染めない世代は確実に居り、そういう方を師匠に持つ新規参加者に伝播して行くんだろう。余談だが、トロコンで挑んだ先輩はスレもなく、その大会をぶっちぎった。

江戸時代からヘラブナ？

「伝統的」には、竹竿に代表されるような「和」のイメージが大きく作用していると思われる。自重を気にする現在はあまり見かけないが、凝った塗りのヘラウキも竹竿と同じように伝統工芸品に見えたらう。リールもルアーも使わない所謂「一本釣り」であり、和＝アナログ・ウッディ？、洋＝デジタル・メカニカル？前時代的と近代的と言い換えても良い。西洋に追いつけ追い越せを国家の大命題としていた時代のコンプレックスが、現代人の価値観にも作用していると思われる。なので、「ヘラブナ 歴史」でググって辿り着いた以下のブログにもあるように、

http://blogs.yahoo.co.jp/gyozo_common/13405385.html

ウキ釣りが和のイメージなのも頷ける。しかし冷静に考えるとウキ釣りよりミャク釣りの方が先だろうし、ルアーフライというシャレオツな異文化に脳天揺さぶられちゃった歴史を持つ日本人ならではの感覚かもしれない。ウキ（フロート）が日本発祥の釣具かどうか、僕はググってもよくわかってないんで何とも言えないんだけど、現在は世界中で使われているアイテムである。なので、ウキについての「伝統的イメージ」はとりあえず「その塗り」に限定したいと感じた。

って、その辺はまあどうでも良いんだけど、さきのブログの中に興味深い記述を見つけた。竹竿（橋本のへら竿）の歴史である。へら竿と和竿の歴史を混同していないか？という問題提起だ。また、娯楽としての釣りは江戸時代以降ともあり、それを浅いか深いかも個人のモノサシによるだろうが、僕が目にしたのは、ヘラブナ釣りが江戸時代から存在していたとする団体なり個人なりが居られることへの危惧が載っていることだ。僕の記憶では、関西の橋本福松という方が、突然変異で体高が異常に高いゲンゴロウブナをこっそり育てたことが起源だと。明治末期のことで、僕がFBに昨日アゲた、映画「海難1890」の話にも出てきた日清日露戦争の頃だ。このブログ記事には、リア

ルにお会いしたことはないがFBでは友達の、前紀州製竿組合長さんもコメントで参戦しており、紀州藩の命を受けた書物にまとめられているというから驚く。ブログ主は「現在のヘラブナとは別の魚種の呼称」である可能性を示して円満に結んでいるが、個人的には続きを見たかったですね。大好きと言いながら、僕はまだまだこの釣りを何も知らないな、と。

エゴとエコ（ぐりとぐら）

ブログの中には、「ヘラブナは国内外来種」という記述もある。全く同感だ。この釣りはただのエゴであって、エコでもなんでもないことを示唆する根源がそこにある。生態系を考慮せずに勝手に放し、釣りあげ傷つけ、また放す。極端なことを言えばブラックバスと同じ構図だと訴えるブログ主ほど人間が出来ていない自分は、当然のように放流バツジも買うが、この釣りがエゴであることは、常に頭の片隅に置いてある。

ただ、この釣りが内包する自己矛盾がまた「イイ」のだ。現代社会が抱える諸問題の縮図であり、どこでバランスを取るかが試される哲学だ。趣味だからと、何も考えずに居たいというのは許されない筈だ。クラブに属さないアングラーでも、選択を迫られるシーンは必ずある。無い、と思える人はお花畑で暮らす幸せなヒト。

歴史の長さで見ても、ヘラブナ釣りの中途半端さは近代日本史とリンクする。ソフトがハードに追いつけない様は同じ。舶来の遊びに感化されず、イマふうでない遊びに夢中になるような変わり者の集まりでありながら、社会が成熟して行くスピードに個のモラルが追いつけない様も、情報を鵜呑みにし、スターを盲信し、資本に踊らされる大衆心理も似ているのだ。自分だけ良ければ構わない輩が跋扈し、ルールをかいくぐったり、無視したりするのも実社会と全く同じだ。それでも、僕にとっては居心地が良い。業界の将来を憂いながらも、優等生ばかり居ないところはある意味気楽だ。とはいえ、たとえばスレ取りする人を評価するワケじゃありませんけどね。笑って許すだけで。

で、この流れでマジいつからなんだろう？と、「ヘラブナ スレ禁止」でもググってみた。良くわからなかったが、その過程でへのプロ認定をするアヤシい団体のHPに辿り着いた。HPはネスケで見ていた時代のような懐かしい作りで、・・・な感じだけど、なんとそこにもさきのブログ主が関係していて驚いた。別のキーワードで検索していったのにね。

今日まで僕は、ブログ主を知らなかった。僕が勉強不足だけで、実は有名な方なのかもしれない。でもちょっとアレな感じだなあ…。プロ団体も知らない。いや、なんとなく聞いたことがあるような気もするが。

風が吹けば桶屋が儲かる。

それにしても不思議だ。

一昨日の底釣りイベントで当たった景品は、紀州和竿を紹介するDVDなんですよ。まだ観てないけど。そんでもって何となくアタマに浮かんだフレーズの先で、前紀州製竿組合長も絡む記事に出会う。昨日観た映画もオーバーラップする。何処が？って声も聞こえてきそうです。

そしてアヤシい団体でしょ。この釣りの将来を憂う勘違い集団ナリーズを主宰する身としては、全く異質なものとして片付ける権利は無い。全てが繋がっている気がするのだ。ただまあ、実際は偶然ではないんだろうね。自分から引き寄せ、切り取ってストーリーを作っているだけで。海難1890だって、最近YouTubeでハマっている「新・映像の世紀」の影響かもしれないし、そのYouTubeに興味を持つ自分は、幼少の頃から環境によって様々な影響を受けて作り上げられたのであって、全ては必然と言えなくもない。もっと言えば、無関係なものなどこの世に存在しないワケでね。

おまけ：ギベリオブナ。



ググってる最中に出会ったサイト。チェコ、プラハだそうです。学生時代に習った歴史はひっくり返り、今はNATO陣営だもんなあ。。。

<http://fishinginprague.com/jp/fishing-with-float/>

日本からヘラ釣りが消えたとき、海外で余生を送るなら何処が良いかと考えてみたことがある。国外脱出出来るような蓄えは無理だと思いつつね。韓国は完全なヘラ釣りが出来そうだが、日本で廃れた後に韓国だけ残るとは思えない。中国台湾はヘラではなくマブっぽいしなあ...とはいえ鮒には変わらないからまあいいか？

為替を考えるとタイか。ほぼヘラスタイルだし、寒くないし最高？でもティラピアがメインじゃなあ...とずっと思ってたんですね。

そこでこのギベリオブナ。中国原産ってことなんで、チェコまで行く必要もないのかもしれませんが。現在の国内のヘラ師の価値観なら、「合ベラだあ。。。」なのか、冷徹に「見事なマブ！」と言って片付けるのかはわかりませんが、日本からヘラが消え去った仮想世界で相手にするならコイツだって思いましたね。ググってみると、全ての個体がこんなに体高があるワケじゃなさそうですが、僕はコイツなら愛せます。コイもマブも全部フラシに入れてた少年時代を持つだけに、僕は口が伸びてもOK！

アムールブナってのは聞いたことあったけど、ギベリオブナというのも居るとは。。。金魚の原種である緋ブナはギベリオ系統という、ギンプナの近縁種だと！世界は広いし、つくづく自分は無知だと思知らされる。世の中の全てを知ることは無理だと開き直るつもりでも、人生のパートナーの親戚くらいは知っとかないとマズいわな。